

2. はじめに

1)大局観

1-1 定式性

1-1-1 技術力・効果性

自社製品は素晴らしい、購入し売上になり、所得と衣食住と家族を養い独立的な主体と習慣の人間を生む。自社製品を勧める根拠は、価格に対し効果が増し付加価値を生む。製品分野の主要素は、食物、衣服、住居等々。栄養を得て生物物理上の生を遂げる。人体の常温を保つ、安定した就寝休息の場に整える。効果を得るのにお金がかかる。

1-1-2 経済観・貨幣制度・金融

なにがしかの効果を実現し対価と所得を掴み、原資を作る生産と消費と所得の循環系と経済観、経済が良くなれば良い理想、貨幣制度で財の交換と流通の利便と向上を図る、貯蓄を投資に回し利息や配当を生む。実物と貨幣、通貨供給、引き締めと緩和、情報操作と価格変動、

1-1-3 事業体・経営

製品サービスを作る仕組として事業体を構成する。各工程と分化と総合の集まりをもって良好な産出と市場を拡大し利益を得て、従業員の所得と生活を向上させる。出来なかった生産を可能にする高度な道具や装置を購入して、生産力が引きあがり、事業体としての力が高まる。

1-1-4 政治・公権力

使用者経営者の欲望が強く従業員を酷使させ、私的豊かさを追求する事を懸念し正常を保つ制度や法規を形成する。一般性の尺度の形成や運用を担う公権力と政治領域を生む。

1-1-5 教育・宗教・文化

正常や健全とは如何なる事か、教育研究の作用が起こり法制度に具体化する。教育研究作用の効果と支出の観点を生む。そもそも生命とは如何なる事か、根本性の答えを問い実際化する宗教の働き、習慣に文化観を産む。

現象と蓄積、知の形成、伝達と再生産の学問学術を産出、過程と結果の周期と大系の循環と集約観を得る。

1-1-6 不動と変動、動静

次第に安定した定式を認識し横軸の観点に不動を生む。固定的概念を持ち縦軸の観点に反映する。不動と変動、動静観を産む。こうして広い意味の領域の健全と持続の制御性に広義の政治なる概念を得る。

1-2 生命人間の歪な変容

1-2-1 金融と情報操作

金融と情報操作により、大きな財を得る態度が生まれる。歪化した人間の欲望が過剰化し、技術を悪用して巨額の富を得る性格が現れる。人間生活に歪な影響を齎せる。生命の病みと破壊性が起こる。無機質合理の物体化と軍事力の増強、戦争とテロの世界が生まれる。

人間のロボット化、生の狂い、格差性、生の荒れた世界、機械化、効率、自動化、科学技術、金融、情報操作、マスコミ、

1-2-2 情報機器・技術

携帯、パソコン、インターネット、サイバー犯罪、情報の盗み、フェイクニュース、電波による人体攻撃、情報システムへ侵入と操作破壊、

1-2-3 生の破壊、破綻性

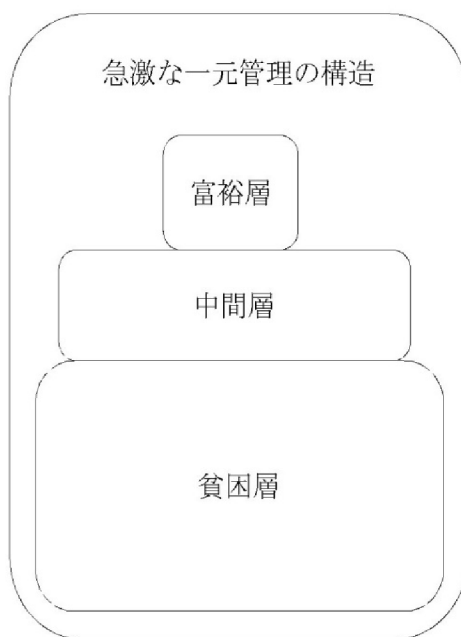
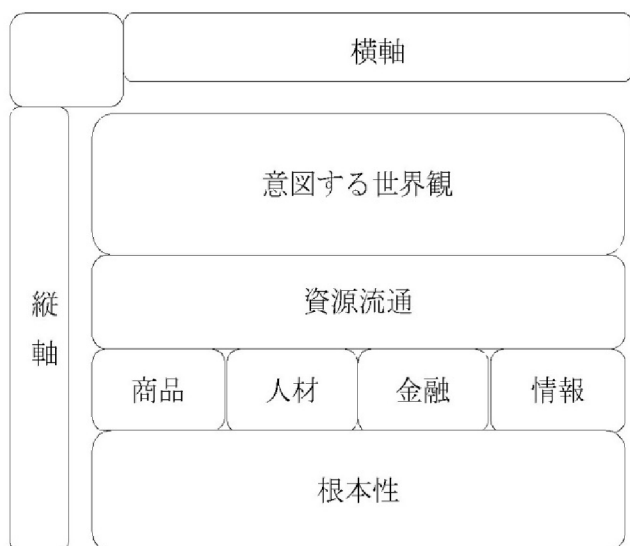
言葉の羅列、論理破綻、言動の不整合、偏差値バカ、人形、産出と検証と改善の習慣の歪化、思考と概念喪失、人間の根本性と基礎性の劣化、金狂い、制御不能、自己不在、無機質合理、物理受動性、

1-2-4 世界共通の問題認識

これらの病理に然るべき対処策が作動しないと破壊と消滅性が加速する。世界共通の問題認識が揃い、健全な定式の存続と永続的生に向けられる。国家間の対立というよりも生命人間を歪に変容させる特定対象に問題性を絞り対処する行為が起こらぬと生の狂いに歯止めが効かず破滅性に向かう。

持続性：習慣と性質、生の健全と持続

動的			静的	体系			
				定式性			
				生命	創造	社会	自然
				感性	概念	精神	身体
周期	抽象	文化	習慣と性質、領域性 抽象観念・理念・祈願 安定と躍動、平等と自由、貧困と豊かさ 成長過程論、創造の包括観				
	準抽象	政治	法制度、教育研究、政治性				
		経営	技術、産業、経営、事業体				
		情報	携帯電話、パソコン、インターネット				
	基礎	金融	貯蓄、投資、資産負債、金融				
		経済	生産、所得、消費				
	具体	家族	個々人、家族				
		自然	地形、気候、動植物、地球、自然性の環境、				
	根源	教育	学問学術性 倫理道德、国語算数、社会、理科、歴史				
		生命	宗教 生滅性				



2)問題性と適正化の作為

2-1 力任せの支配性と全体志向、生の歪性

金融と情報の発達是一元管理の構造が強まり、資源流通の歪化した急激な一部の支配性と構造が生まれる。感性和概念と精神と身体の健康な相関と規則性の崩れた領域性を生む。

2-2 生産性の範囲、制御性・自律性の欠落

生産性の範囲という観点が希薄で、力任せに内外を従える歪性が増す。食い散らかしの分散と混乱性、空疎的な概念と強権的力と統制という両極の過剰と異常性が生まれる。大きな領域性を金融と情報という技術に依存を強め統治を行う態度が増す。生命人間の崩れた全体主義の様相を招く。国家や地域という纏まりの単位の適正範囲を求める。健全な感性和概念と精神と身体の制御性を図ることの出来る適正範囲をもって変わらぬ根本が作動し、全体大局性に反映され、個別特定の適正に連なる。

2-3 適正範囲の求め方

生命、根本性の崩れは、深刻な病理性を齎せる。物理受動と破壊の世界を生む。感性和概念と精神性が痩せ、感覚と物体の偏る生命体を生む。健全な感性を起源にして思考が重なり、適正概念を産出する様子が起こる。生命観、人間観、創造観、社会観、自然観、生態観、動静観、不動と変動、根本且つ全体大局性と個別特定性、

2-4 生の健全と持続の世界観

生命のあるべき原型を問い、根本性を定め、創造の包括観と成長過程の適正論、動静観という概念形成と集約の概念、世界観を産む。

生の原型性、創造の包括観、成長過程論、動静観、生の健全と持続性

金融

情報

食い散らかしの分散と混乱

空疎的な概念と強権的な力と統制

生の健全と持続性

動静観

静的
動的

体系

産出

創造の包括観

周
期

根幹

成長過程論

活動の規則性

根源

生の原型性

根本性と対象性と運用

静的
動的

根本性

感性

概念

精神

身体

対
象
性

抽象

準抽象

具象

3)生命学と応用の観点

3-1 問い

行政と同様の専門性を有する者が政治という配置を得て領域の安定と成長の持続的統治を遂げられるか。貴方の考えを述べなさい。

3-2 答え

3-2-1 同一的根本性

あらゆる創造力は、生命と人間観を基礎土台の根拠に求め、全体大局観を導出し個別特定現象の性格や配置と強弱を作る創造観を生む。

規模の大小にかかわらず、いずれの領域にも同一の根本原理を求める創造の一般原理を認識する。これによらぬと大きなことは良い事という価値と運用が広がり基礎の壊れた力の暴走と破壊が生まれる。

3-2-2 生物の変動性

健全と持続を望み、あるべき生命の宿る領域性が進む。生物の萌芽、成長、安定、衰退、成熟という成長過程と段階や周期の見解を生む。どのような状況か。現況に照らし望ましい構成と制御が変わる。

3-2-3 不動と変動

根本性を不動性に求め、変動と環境認識と最良を作る動静が作動する。生きた生命観を想定の上にあるべき創造と解答が生まれる。あまりに断片的羅列の生によると、時代環境などという要素を省き一様な適用が進む。生の基本的土台と枠組の見解を初動に作りあらゆる創造の出発点を構成する。基礎が揃い二次三次の基準と運用の適正に連なる。不動と変動の観点が基礎を生む。

3-2-4 政治と行政

初動の観点が乏しいと「そんなことも知らないの」などに見下し自己の立場を守る態度が増す。偏りの激しい利益追求と部分最適の領域に陥る警戒感が生じる。決まった方法を着実に熟す行政と不動性の観念を引き出し内外環境に照らし妥当を図る政治作用を生む。求められる資質や機能に違いを生む。

3-2-5 基礎と専門と総合

自己尺度と序列を求める態度が増す。専門性が進むほどに特定政策と技能の自信が高まり、他の尺度を受け入れず持続と生存を望む性格が現れる。特定領域の最適、根本且つ全体大局の喪失に問題が生まれる。普遍的不変の尺度と時々の諸状態と適正な方法を導出し実施と検証と改善の回る動静の規則性を生む。同一性の基礎と全体大局観と個別特定性の集約観と稼働性を生む。

3-2-6 政治の役割、広義の政治観

政治には、健全な生命観を有する資質があり特定領域の肥満や墮落を正す作用や領域の発展と持続に及ぶ牽引性という前後を含む操作が生まれる。専門的知見が無いとできないか。求められることの優先は何か。偏狭な専門、空疎な全体、強権的統合は、根本且つ全体大局観を失い個別特定観を形成する。広義の政治観を必要にする。

3-2-7 表層的表現、生身の創造

表層上の経歴と煌びやかさをもって、良し悪しを選定する判断が進む。絵に描いたような役職歴やエリート街道を装飾し、内実の乏しさや歪さにある事も少なくない。健全な感性や思考と概念が備わるか。活動習慣から結果性として意図する概念や見識が形成される。生命観や人間観、活動観や社会観、自然観、生態観、動静観等の考えと領域観の内容、質実、真相に着目し良し悪しを判断する観点が強調される。変わりづらい概念性と時々の政策性と技能性の相関を生む。

3-2-8 意図と資源

二次三次の基準と運用が進むことに対して、ゼロベースから適正を求め作る創造が作動する。人材を適正に算定できるか。意図する概念性に適正が有りそれに働く対象を募り資源を得て意図と方法と検証と改善を持続する。

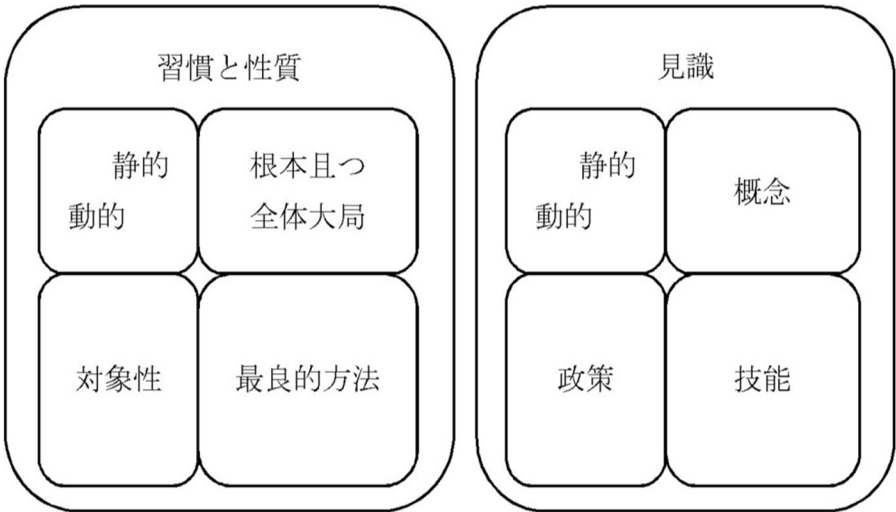
3-2-9 短期、中期、長期の利益性

特定機能と効果、即効を求めるばかり、基礎と根本への思慮が弱まり、短期的利益は遂げたが、中長期の利益を損ないプラスマイナスを勘案すると不利益や被害が多く、資源選定を誤った人事の産出に不適格の裁定を生

む。対象への個々人的な私怨が強い、肥満な構造的に陥り基礎と公性を失った部分最適と物理合理の力を用いる不均衡と不調和を広げる。権限や財力を得る過程に怪しさを見る。産出と検証と改善の活動習慣の乏しい盗み詐欺暴力を基調にする成長過程を伺う。

3-2-10 根本且つ総合の枠組、見識と流通

見識性、概念性、政策性、技能性という総合の枠組をもって真に良好な生と持続の分化と協業の仕組と軌道を生む。領域を主導する立場の見識性が弱いと歪な資源と流通が増し領域の破壊性を生む。



4)思考

4-1 種類・分類

小売店に行くと多種多様な商品が陳列されている。客が容易に選択できるように、カテゴリーに分け識別しやすいように配置される。野菜、果物、肉、魚、飲料、調味料、お米、パン、お菓子、等々、各分野を構成する同一性の主要素が有り細かな違いを生む。多種多様を一定の分野に区分し理解と納得と共感と選択が進むように思考作用を投じ明示する。

4-2 自製品と他製品、標準と過不足、主観と客観

自社製品はとにかく素晴らしいと訴求する事は適正か。あまりに大雑把な自己認識と伝達への不信感が起こらぬか。自社製品はどのような分野にあるか、主要素と付随要素は何か。違いが比較される。長所と短所を客観視するのに、定番や標準観を備え不足と充足を掴み価格を付ける。自己の客観視と自律や自制をもって内外に案内する。過大な評価と表記と宣伝により需要に不信や疑念を招かぬ評価と認識を整え需給の健全と持続を求める制御が生まれる。

4-3 顧客第一、自国第一、自存と他存

顧客第一主義や自国第一主義なる概念が見られる。一面的な要素を取り上げ価値の序列を構成し強調する。健全な感性をもとに思考を経て概念と態度と創造性、社会性と人間性に伝わるか。

4-4 部分性と全体性、良い点と悪しき点、弱肉強食

小出しと部分に偏り、全体を纏め示さない。良い点ばかりを強調し悪しき点を隠し外界を欺き優位を求める性質に映る。長らく良好な内外性を作るに及ぶか。弱いとみると強く出る。強いとみると弱く出る。

4-5 需給環境と傾向

供給過剰の需要不足という経済環境は、短所を探し減点評価と削減をもって、対象を買い叩き省資源で大きな効果を遂げる発想と思考の習慣が進む。対象の粗を探し非難を高め突き倒す攻撃性を生む。直接間接の因果を探り一定の理解を作り問題の改善を促す思慮を欠くと消滅性が増し恨みや禍根が残る。良し悪しを短絡に判定し物理因果による生滅反応を強める。

4-6 二項と因果

「快不快、善悪美醜、真偽、正負、動静、生滅、過程と結果」相対する二極の判断に対し間の因果を問い思考が起こり、あるべき領域観や概念世界観を形成する理性なる感性と適正作用が出現する。

5)生命と領域の適正、生産性の範囲

5-1 活動と習慣と性質、根本且つ全体大局と個別特定

物理の強弱反応に支配された自律と制御、人格の脆弱な性格を表す。あまりに適度性を欠くと犯罪性や病理性の判定が生じる。活動と習慣から性質が作り出される。過程と結果の相関を生む。自他を含めた全体性と個別特定の相関や配置と体系観を産む。健全な根本を基礎土台にもって全体や大局と個別特定の周期と体系と持続の集約観を産む。

5-2 今日性、無思慮・無思考、力の支配

一方向性の監視を強め情報を盗み自己に有利な操作を加える。歪化した管理や制御の経営や政治が見られる。予めの思考と尺度の形成と明示を省き、力任せに対象を支配する無思考・無機質の非人間性と病理性を表す。特権意識と地位の固定、格差の拡大、ごく限られた支配層、不健全な生と動静の活動と性質が進む。肥満な性質と強欲、不平等・不公平、略奪と破壊、無思考と力の反応、力の支配という生命の歪性と是正の対応が要る。

5-3 単純抽象の作為

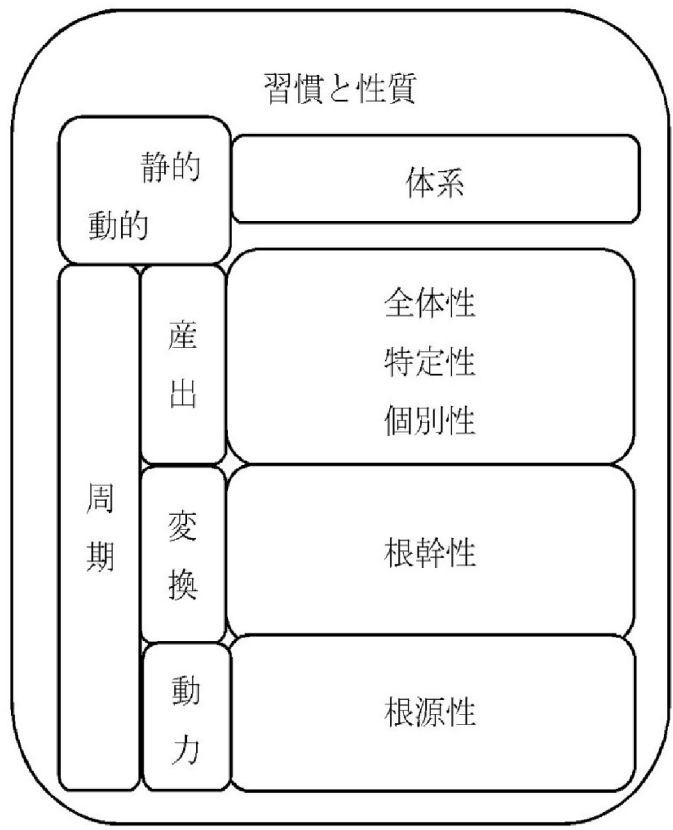
国家と国家の対立構造に単純抽象させ、自領域の統制を企てる様子に伝わる主導性は、短絡の因果と無思考・無機質、生の根本性の希薄化した特定領域の最適を求める歪性を伺う。健全な感性と思考と概念と制御を図る態度からはずれた「煽り脅し騙し」という質実にないか。

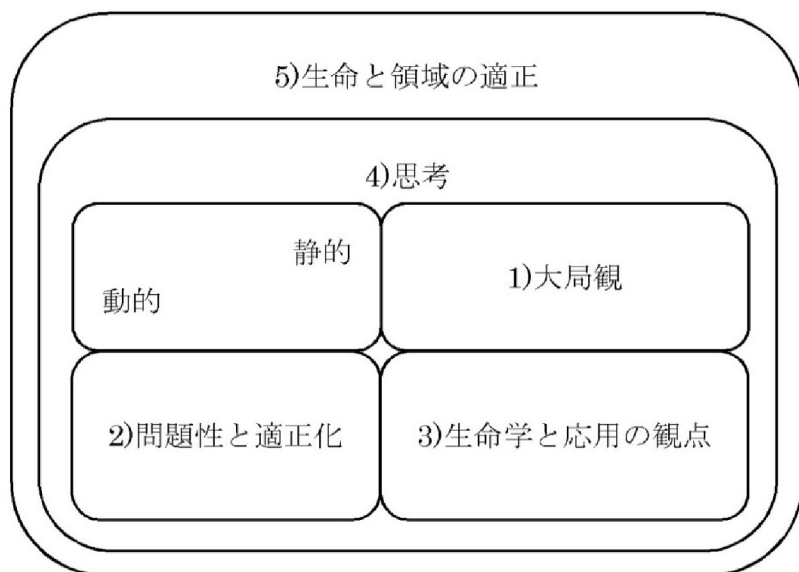
- ・ランキング表と序列構成伝達、内容構成の安直と数値の集計、
- ・心象形成と誘導、情報操作、思考と概念形成の不足、即効性、
- ・デザイン性と衝動、一過的刺激、結果性のみ過程の省略、

5-4 主要な生産性

「グローバルとローカル、富裕層と貧困層」という領域性の範囲や状態を示す抽象観が用いられる。生命、生滅の在り方に他ならず万人的な関心と思慮と答えを作る過程と産出の習慣を生む。生命と生態の健全と持続を求め概念や世界観を産み現況認識を経て最良的方法を投じる一巡的完結の周

期に広義の普遍的不変の観念を得る。自他との理解と納得共感と現象を作る態度が進む。「大局観、問題性と適正化、生命学と応用の観点」「思考、生命と領域の適正」という観点と相関の文脈を生む。当該創造の主要な範囲と内容を集約します。



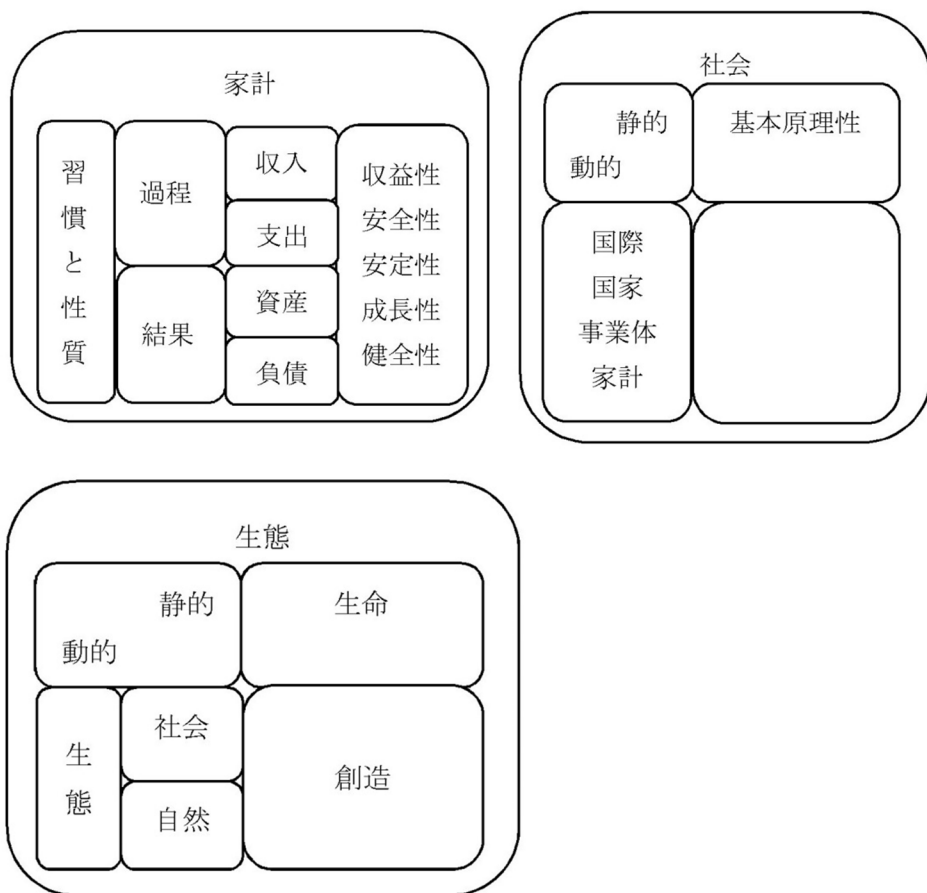


6)基礎性の観点

6-1 家計

万人性を対象として、ごく身近な皮膚感覚の観点と日常観が作られる。

この認識を基礎性に整え初動的な尺度を揃える事が望まれる。家計という特定領域を対象として主要な観点と相関を抽象集約する。基礎性の尺度を土台的根幹にもって、事業体や国家、国際などという社会性と対象の広がる領域を想定し基本原理と応用の創造が生まれる。どのような社会性にも基本原理は同一性を生む。そして、生命と創造、社会と自然と生態という全域性や大局性の概念と世界観を構成する。



6-2 基本原理

6-2-1 収入

給与所得、金利、譲渡所得

6-2-2 支出

食費、光熱費：水道ガス電気、家賃、住宅ローン、家電：冷蔵庫、洗濯機、テレビ、エアコン、暖房器具、情報機器、電話、携帯、衣類、布団、車両、自転車、工具、テーブル、椅子、タンス、棚、ベット、カーテン、照明、教育費、書籍、医療費、保険、防犯機器、防犯カメラ、鍵、金庫、警備、防災、遊興、旅行、絵画、仏壇・神棚、芸術品、

6-2-3 資産負債：有形無形、短期中期長期、

6-2-4 集約：固定費と変動費、収入と支出、資産と負債、動静、

7)概念性

7-1 抽象原理、根本原理

7-1-1 根源

生滅

7-1-2 二項と調和

栄養毒素、効果影響、収支、利益不利益、成長衰退、動静、

7-1-3 基軸視点と広がり

効果、技能、収支、経済、管理、経営、政治、教育、生命宗教、文化、

7-1-4 評価指標

収益性、安定安全性、成長性、健全性、持続性、

7-2 健全と持続

7-2-1 基礎土台性

家計性の観点が基礎土台性を生み対象の広がりには反映される。核家族化とマンションの生活、利便性、簡略化、効率性、都市化の基調は、生命と人間の健全性の程度を破壊させる。頭脳性が異様に発達して、体と頭の乖離を広げる精神の歪化した習慣と性質を作る。

7-2-2 指標の相関と優先

概念形成は広狭の観点を生み健全な生命と活動人間を表す。狭義の概念性の中に健全な生命活動人間と生態を映し広義の概念を作る姿にあって健全性と持続性を生む。健全性を欠く収益性や安全性、成長性は危うい生命を生む。習慣と性質と動静観が生まれる。動態過剰や動態不良に陥らぬ活動性に生の健全と持続を遂げる。

7-2-3 健全と持続の相関

実物性から離れた活動習慣が増し生身の生の感覚や感性が歪化し、情報や言葉、概念の歪化、喪失に陥る生命と人間が生まれる。力の適正な制御性を失った病理が現れる。健全性の指標からみてあまりに歪性にある収益性や安定安全、成長性を齎せる事の問題性を認識する。

健全を損なうと持続が瘦せる生命の根源と基本原理が作動する。

7-3 現況性

7-3-1 成長と安定期、衰退性の時期

今日、現代において右肩上がりの成長と安定性の時期と同様の尺度と運用を求める事は生の狂いを加速し破滅の未来が近づく。一部の壊れた性質を取り除く賢明な判断を必要にする。衰退性の期に歪性を加速して急激な破滅を生む前兆が映る。成長と安定期と同じようなスタイルを続ける事は、肥満と病理、根本性を病理化する。

7-3-2 サービス経済化、能力観

金融、投資、情報化社会などというサービス経済化の過剰と功罪が鮮明化する。人間自らが積極的に生を適正に牽引する作用が下落し、真逆的な破壊性を拡大し生態の悪化と消滅の世界を近づける。人間の能力観の中に、健全な感性や思考と概念と精神の要素を含めないと犯罪性と病理性が広がり深まる世界を齎せる。

7-3-3 生命観の狂い

自然性と距離が広がり、生身の生の質感が鈍感化して粗末な生を量産する歪性を生じさせる生活習慣の進行には是正の作用が生まれる。大きな影響力

を道具や装置に振り回された物理受動性は根本の破綻した現象を拡大させる。短期周期の過剰化した乱開発と大量消費の社会システムに、先進や進歩と成長性を映す様子に根本的な誤りが起こる。

7-3-4 根本性の破綻

経済性の欲求が前のめり、煽りと扇動や洗脳の作為が目立ち内面の病んだ外形を顕在化する。根本や基礎の歪化した全体大局と個別特定を生む。金狂いの経営、政治、経済、教育、文化の軌道を進めることの補正が作動し正常に修復される。まるで幼児のような経営者、政治屋、教育、宗教は根本の破綻した性質を表出する。

7-3-5 国益か私益か、権利義務の乖離

金融、情報、軍事という特定産業の欲求の過剰を適正化させる態度が生まれ金で操られる政治を治す文化が進む。国家の為か、私的欲望と野心や利己性か。洗練集約された観測尺度が設けられる。主導性を担う立場において過去の人的繋がりや経験はごく周辺の利益性に回り悪性に作用する。担う範囲と実際の乖離を増す。これを補正する思考と適正理論を必要にする。

7-3-6 広い意味の政治の失敗

金でなんでも買う習慣が強まり物のみならず人も容易に操る感覚と態度が増し不要になれば容易に捨てる生の真相が生まれる。ごく一部の富裕層と多くの貧困という社会構造は根本の破綻した様子を認識する。政治の失敗であり教育や経済、産業を適正に作る態度が弱く、病んだ生態を招いた。

7-3-7 犯罪性と病理性、修復性

やるべき事柄を省き歪な応用に外れ醜態を晒す。金狂いと宣伝過多による物理依存と支配性を求める粗末な経営や政治は内外に恥を晒す。人間の性質を歪化させる不利益性と解される。犯罪と病理を伝える。根本概念や指標の相関について答えを求める事が要る。相応する配置と力に修復される。

7-4 適正策

7-4-1 人権

人権なる概念と内容を整備し異様化した生と広がりを予防する作為が進む。人権観も利己性が加速する向きに働く自由主義と無秩序性や独立自尊に陥らぬ、内容と運用を必要にする。原論と實際が真逆などという破綻が見られる。産出と検証と改善の活動が崩れた気ままな産出や虫食いの病理が起こる。歪な専門職化した基準と運用にないか。

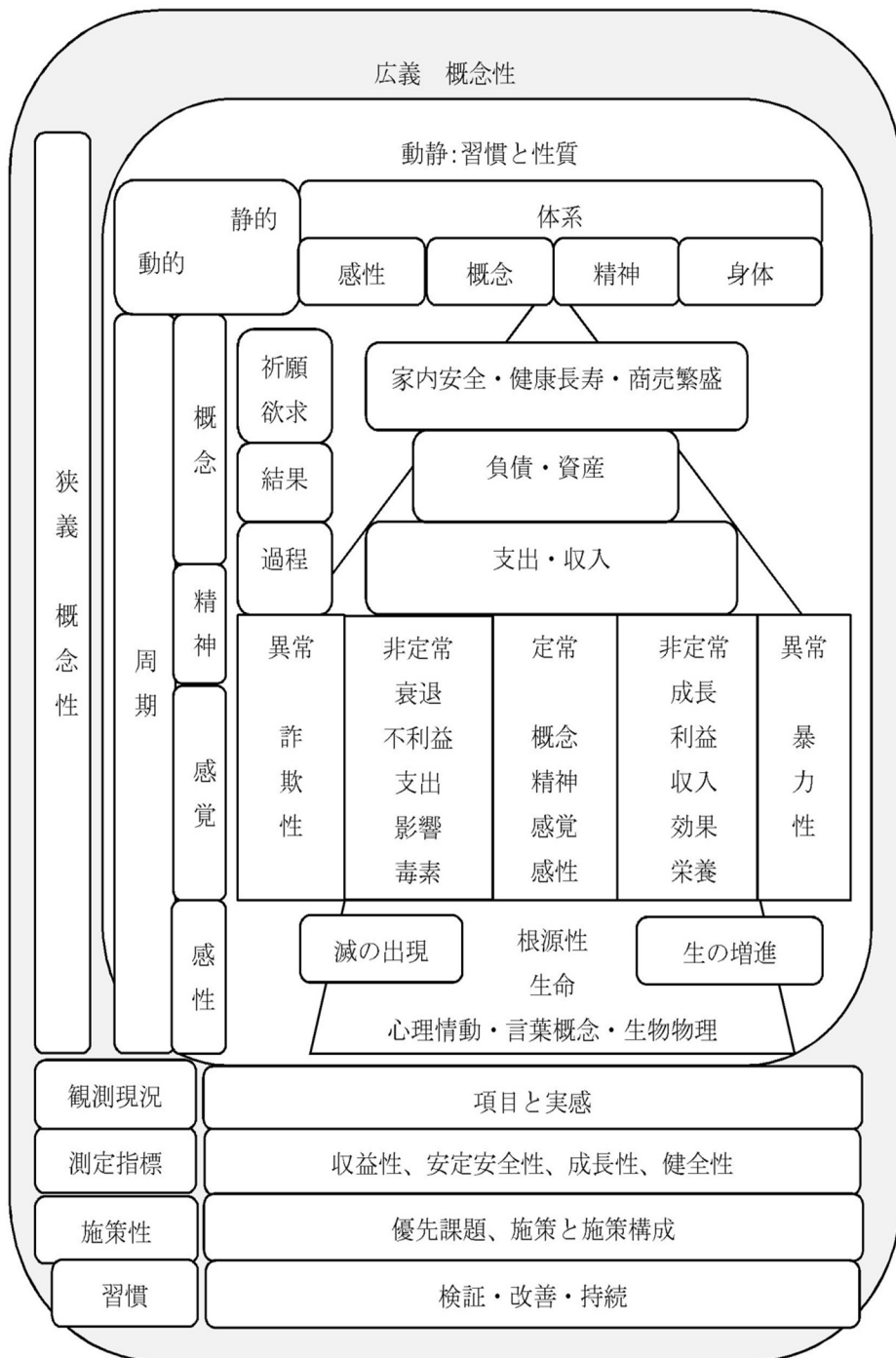
7-4-2 基礎性の科目分野

私的な事柄を公性の強い電波に流し宣伝する芸能が生まれる。バラエティーという一過的緩和の分野に対し一定の尊重は生まれる。基幹的定常の分野が、この性格と同様の振る舞いに流れる事は領域の墮落と負の教育作用が増す。自己の産出は何か、検証と改善と持続をもって領域の本質性を不動にした習慣を遂げる。基礎性の教育が崩れると籬のかからぬ肥満と不健全を齎せる。

7-4-3 適正観と運用性

概念構成を少し間違えると頭脳に偏った歪性や人間の個々人化とモノ化を促進させる。協調性や同一性を失った混乱と破綻性を広げる。物理受動の異様性、不整合性の強い言葉や概念の偏りと異様性、両面の歪性を勘案し健全な思考を重ね適正概念を引き出し現象化する。

根本性と対象性と運用の周期と体系と持続の動静観が要る。非力性と強い力を備える者に対し同一的な根本性の観念を引き出し対象の性格や範囲、影響に照らし妥当な方法を引き出し投じる動静を欠き一様の概念と強権や不公正に陥る。権力をもって非力性に過剰な力で抑え込む暴走が進む。肥満な成長過程と備わる観点や概念の歪性と運用に外れる。自愛の激しい陶醉と肥満や怠慢、愚図な性格による論理と運用を招く。自己に甘く他に厳しい不均衡と不調和の過剰性を中枢に置くとこの性質が二次三次の常識を広げる。



2. はじめに

1)大局観 2)問題性と適正化の作為 3)生命学と応用の観点

4)思考 5)生命と領域の適正、生産性の範囲 6)基礎性の観点 7)概念性

1)表現の自由

権力を担う立場に批判的な声を上げる者が現れる。大きな力をもって領域を主導するライン性の創造習慣に、「それはいけない」などと批判の表現を作る非力的な個々人性という構図が生まれる。

権力性は批判を塞ぎ込ませる事を意図して、あらゆる権力や財力、技術力を投じる事は適正か。いずれの様子に肯定的な評価を加えるか、第三者には一定の選択の自由が残される。バカを晒し自己の首を絞めるリスクを背負いながら行う表現は過度な縛りを与えず、表現の自由の理念を尊重する判断が進む。

領域の主導性は、積極的に建設性の創造に大半のエネルギーを費やし、利害関係者の理解と納得、共感を作る性格が作動する。批判性を積極的に塞ぎ込ませる作為に、多くの関心や意識を集め封殺する作為に施策の割合を高めるようであると不健全な主導性に映る。利己的な欲求と充足を求める作為や性質を伝える。

堂々と身元を明らかにし投じる表現と創造力に、大きな力をもって封殺する作用を抑制する態度が進む。自己に自信がなく神経過敏とヒステリー反応を見せる性格は配置と力の活用に適正を欠く。みすばらしいイジメを受け犬根性を垣間見せる。

個々人性の立場も、あまりに粗末な批判を繰り返すと自己の馬鹿さ加減を内外に広げる。バカを相手にすることは不毛である判断が起こり自滅性に向かう。一定の肯定感と共感が生まれる表現にはプラス性の関心と支援の力が加えられる。平等の感性を起源に、批判と肯定、リスクとリターン、安定と活力、社会性と自然性、健全な生命・生態の因果が存続する。